

# 女性の皆さん 乳がん・子宮がん を受けていますか？ 検診を



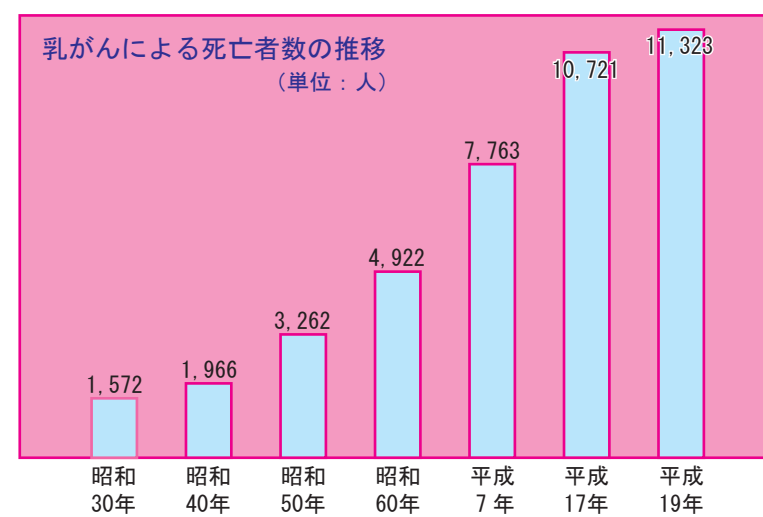
がんは、日本において昭和56年より死亡原因の第1位であり、現在では、年間30万人以上が亡くなっています。また、生涯のうちにかんにかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と推計されています。

この中でも乳がんは、女性のがん罹患率の第1位となっており、年間約3万5千人が発症し、約1万人が亡くなるとともに、年々増加傾向にあります。また、乳がんによる死亡率も年々上昇しており、65歳未満で女性のがん死亡の第1位となっています。

子宮がんは大きく分けて2種類あり、子宮頸がんでは、検診での早期発見と衛生状態が良くなったため（子宮頸がんはウイルス性のため）と考えられ、亡くなる人も年々減少しています。一方、子宮体がんは死亡率自体減少しているものの、発生率はそれほど減少していません。これは日本人の食生活の欧米化が起因しているといわれています。

## 20人に1人が乳がん

日本の女性が最もかかりやすいがんが乳がん、20人に1人が乳がんにかかるといわれています。亡くなった女性も、昭和60年は約5千人だったのに対し、平成19年は1万1,323人と倍以上になっており、その半数近くは30歳代から50歳代でした。



ここ30年間の乳がんの急激な増加は、食生活やライフスタイルの変化が、エストロゲン(女性ホルモン)の分泌に影響しているためとみられています。乳がんは女性の壮年層(30歳から64歳)の、がん死亡原因のトップになっているにも関わらず、無関心な人が多いのも現状です。

## 症状はさまざまです

乳がんは乳腺(母乳をつくるところ)に発生する悪性腫瘍です。症状は、しこり、痛み、血液が混じったような分泌物がでる、皮膚のくぼみ、脇の下のしこりなどさまざまです。

乳がんの初期には、食欲が減ったり体調が悪くなるなどの全身症状はほとんどありません。気付かずにそのまま放置しておく、乳腺の外にまでがん細胞が増殖し、血管やリンパ管を通して全身へと広がってきます。乳房のわずかな変化を見逃さないことが大切です。



## 40歳代で急増

「乳がんはまだ私には関係ない」と思っていますか。乳がんにかかる人は、30歳代から40歳代にかけて急増します。「閉経後は大丈夫」「50歳過ぎたら乳がんにならない」ということもあります。また、若いからといって油断はできません。乳がんは何歳でもかかる可能性があります。家族や親戚に乳がんはいない、出産・授乳経験があるから大丈夫、ということもいえないのです。

## 早期発見の重要性

残念ながら、現在乳がんの予防法はありません。しかし、早期発見であれば約90%の人が治癒します。早期発見には、セルフチェックや検診が大切です。


町では、乳がんと子宮がんの検診を行っています。乳がんは40歳以上の女性、子宮がんは20歳以上の女性を対象に、一部自己負担により鉋路がん検診センターで受けることができます。

町が行う検診は、2年に1回受診することが可能です。なお今年度においては、検診受診率の向上を目的に、クーポン券による無料検診を行います。対象となる人には、9月上旬にクーポン券を送付しますので、内容を確認し、ぜひ受診しましょう。

### ピンクリボン運動

ピンクリボンとは、乳がんの撲滅、検診の早期受診を啓もう・推進するために行われる世界規模のキャンペーンもしくはそのシンボルをいいます。

さまざまな由来がありますが、日本で一般的に認知されるようになったのは、2000年代に入ってからです。



53 ● 問い合わせ／保健介護課健康づくり係 ☎ 3333

	子宮がん検診	乳がん検診
検診方法	集団検診／個別検診	集団検診／個別検診
対象者	20歳以上の女性	40歳以上の女性
検診料金	1,500円	50歳未満 1,900円
	75歳以上は無料	50歳以上 1,600円
クーポン券での無料検診	昨年度20歳、25歳、30歳、35歳、40歳の人	昨年度40歳、45歳、50歳、55歳、60歳の人

- 集団検診は、バスでがん検診センターに行き受ける検診です。(今後は10月、12月、2月に実施予定)
- 個別検診は、都合の良い日に予約して、自分でがん検診センターに行き受ける検診です。
- クーポン券の無料受診対象者には、9月上旬に詳しい案内を送付します。